

「内側から見た新聞報道」

富士常葉大学
竹居 照芳

1

全国紙(記事)の特性

- ◆ 多様な読者層を踏まえ、主義主張を前面には出さない。
- ◆ 「えーっ」、「そりゃひどい」、「けしからん」、「面白い」、「すごい」など、読者の目を引く記事を大きく扱う。野次馬的。センセーショナリズムの色彩も。人が犬を噛めばニュースに。メディアが“ほめる”のはまれ。
- ◆ 特ダネ重視。一般紙は似たもの同士なので、過当競争に。差別化の象徴が特ダネ。
- ◆ 「木鐸」は二の次。
- ◆ 相対的な見方の記事より、単純化した見方のほうが記事は大きくなりやすい。わかりにくい内容の記事は敬遠されがち。読者のレベルに合わせて？
- ◆ 訂正記事を載せたがらない。

2

紙面ができるまでのプロセス

- ◆ 記者の拠点: 記者クラブ(競争と協調)、社内取材センター、遊軍。発表や共同会見も多い。
- ◆ 取材(単独が普通。グループ取材・情報交換もある) 原稿執筆 (キャップ) 担当デスク (手直し、見出し・扱いの判断、ボツや在庫にすることも) 出稿 一面など総合面は整理部および編集局幹部(当番制)が扱いを判断。
- ◆ 大特ダネは最終版にしか載せない。途中で他社に洩れ、同着になるのを避ける。

3

記者の意識

- ◆ 自分の原稿が新聞に載る喜び。大きく扱われるほど喜びは大きい。
- ◆ 世の中をびっくりさせる特ダネを追いかけ、ものにすることに最も燃える。夜回りなどを厭わず。発表ものは“消化試合”だが、書き方次第では大きな扱いに。
- ◆ どんな記事が大きく扱われるかは新聞社によって多少違う。大きく扱われるようなテーマ、視点(切り口)を念頭に取材・執筆する傾向がある。“ケインズの美人投票”。
- ◆ 他社に抜かれる「特落ち」を避けたい。トップ人事などは勝ち負けがはっきりするので必死に追う。
- ◆ 取材先が評価しても、派手でない記事は社内では評価されない(読者による評価制度がない)。

4

新聞記者の問題点

- ◆ 採用試験難しい:細かい時事問題などのテストもある。予備校がある。
- ◆ 履歴:大学卒の採用が多数。概して理論的な基礎が乏しい。OJT。常識、良識の範囲で解釈する。
- ◆ 文系出身者が多数。理数に弱い。化学物質のリスクのとらえかたをまず知らない。
- ◆ 支局から本社に配属されたあと、半年、1年、長くて2年で担当が変わる。「浅く、広く」にはなる。
- ◆ 総合情報機関化などで忙しい一方。じっくり物事の本質を考えたり、学んだりする時間が乏しい。
- ◆ 依然、年功序列の色彩が強い。40歳前後で多数は第一線を離れる。蓄積を踏まえて含蓄のあるニュース記事を書ける第一線記者が少ない。

5

化学物質報道について

- ◆ リスクのとらえかたがハザード・ベース(ダイオキシンが典型)。庶民感覚のレベルに近い。リスク・ベースでの他物質との比較、対策の社会的なコストから見てどうか、などといった視点が乏しい。
- ◆ 「**が猛烈に危険な化学物質**」となると、「そりゃ大変だ」ということで、共同発表であろうと紙面で大きく扱うと予想できる。それがわかるから、意気込んで原稿を書く。関連原稿も出す。また、続報も大きくなるのが期待できるので、その後も集中的に取材・執筆する。
- ◆ 後日、「健康を害する心配はなかった」との発表は、他のニュース原稿との比較で、記事が載るか(その場合、どんな扱いにするか)、ボツかが決まる。「大変だ」、「ひどい」などのものさしだと、大きな扱いは期待できず。
- ◆ 「100%安全」なら、いざ知らず、そうでないなら、訂正的な記事は載せたくないという心情もありうる。

6

情報提供者側に問題はないか

- ◆ 記者会見などで、発表者・情報提供者側には大きく扱ってもらいたいという気持がある。
- ◆ センセーショナルに扱ってもらったほうが好都合なときは、不正確に(例えばハザード・ベースで)記事を書きそうなことがわかかっていても、黙っているのではないか。(記者が「要するにどういうことか」と結論だけを聞いたがるせいもあるが)
- ◆ 記者の多くは、安全とは100%安全という理解をしがち。情報提供者はこうした情報の受け手の判断能力を踏まえて、正確に理解してもらえるように丁寧なレクチャーをしているか？

7

提案

「優れた記者を皆で育ててほしい」

- ◆ 新聞(社)の改革を当てにしないで。
- ◆ 官庁、大学などが中心になって、勉強する意欲がありそうな若手の記者を数人集めて長期継続の勉強会を組織する。
- ◆ 環境関連のさまざまな専門家が講師になり、理系の基礎学力・知識が不十分な記者でも理解できるようにレクチャーを。社会的な広がりのある文脈の中でとらえるようなレクチャーも必要。虫の眼と鳥の眼を。
- ◆ 研究者、学者が遠慮なくはっきりと批判し合うようになって、論点を明確にしてほしい。それが記者の問題意識を鮮明にするし、その結果、国民にも何が問題かがはっきりと伝わる。

8